

平成31年 4月 市長定例記者会見

2019年 4月 1日(月)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成31年 4月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数ではございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようよろしくお願いいたします。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、よろしくお願いいたします。

まず、本日から新年度がスタートいたしました。私どもも76名の新しい職員が増えまして、それぞれ頑張っていたきたいと思っております。

また、新元号が「令和」ということに決まりました。新たな時代を迎えていくことになろうかと思いますが、まだなじまないのも、どんな年になるのかイメージつきませんけれども、いい年に、また、いい年代になっていきたいと思っております。

さて、いよいよ統一地方選挙が今月は実施されますし、また、週末には知事、県議会選挙がございますので、その後には私どもの市長選、市議会議員選挙ということで、人事異動につきましては、退職者の後任や補職など最小限にとどめたものを今回、人事異動とさせていただきます。選挙後につきましては、選挙が終わった後ですので、また改めて人事異動が行われるものと思っております。

今日は、発表項目6項目ありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 では事業発表ですが、まず最初に、庁舎内観デザインの決定についてということでございます。

新しい庁舎の内観デザインにつきましては、パブリックコメントで集まった意見をもとに、案Bのデザインを採用することに決定いたしました。内観デザインの決定に当たりましては、3月15日から26日までの期間、市内各公民館やプラザ萬象、市庁舎1階市民ホール及び市内各小中学校に意見回収箱と内観デザイン案の資料を設置し、パブリックコメントを実施いたしました。また、3月18日から19日にかけて、現庁舎付近の小中学校4校で出前講座を開催し、担当職員が生徒に内観デザイン案について説明を行っております。

次に、2番目でございますけれども、平成31年度敦賀市産業間連携推進事業費補助金の採択についてでございます。

ハーモニアスポーツ構想先導事業の平成31年度敦賀市産業間連携推進事業費補助金につきまして、審査委員会の審査を経て、平成30年度の継続事業3件に加え、新規事業3件について採択を行いました。

今回の新規の採択案件につきましては、まず太平洋セメント株式会社を代表事業者とす

るコンソーシアムによるリチウムイオン電池のリサイクル技術開発を、次に、敦賀セメントを代表事業者とするコンソーシアムによる廃棄物処理によるリサイクル水素製造開発を、そして最後に、株式会社日東工作所による高効率水素エンジン利用ドローン研究開発を採択いたしました。

特に申し上げたいのは、最後の高効率水素エンジン利用ドローン研究開発です。これは近畿経済産業局が打ち出しました水素を燃料とする高出力、高航続距離のドローンを開発するHyDrone（ハイドローン）プロジェクトの一翼を担うもので、株式会社日東工作所の提案ではありますが、近畿経済産業局との官民連携プロジェクトとなります。この水素ドローン、HyDroneにつきましても、近畿経済産業局では2025年、大阪・関西万博でのデモフライトを目指しており、これに本市も協力することとなります。50年前の大阪万博では原子力の火を届けましたが、次の万博には「敦賀から羽ばたく水素の翼」をキャッチフレーズに敦賀から水素の翼を送り届けたいというふうに考えております。

3番目ですけれども、「人道の港 敦賀ムゼウム」リニューアルプロジェクトに関するクラウドファンディングの開始についてであります。

人道の港敦賀ムゼウムは、平和の尊さと命の大切さを訴える場としての役割を拡充すると同時に、人道の港に関する情報発信の中心的な役割を担い、金ヶ崎周辺エリアで新たなにぎわいを創出するため、2020年度にリニューアルオープンする予定です。人道の港敦賀ムゼウムの施設拡充を契機として、国内外に向けた新たな情報発信ツールを採用するとともに、人道の港敦賀事業の趣旨に賛同される方々の支援を広く募るため、本日、4月1日よりクラウドファンディングを実施させていただきます。よろしく申し上げます。

それから、4番目です。大韓民国江原道東海市への職員派遣についてです。

1981年に姉妹都市盟約を締結した大韓民国江原道東海市へ4月10日から10月9日までの6カ月間、職員を派遣します。両市の地方行政の国際化や専門化に対応する職員の養成を目的とした職員の相互派遣は、1992年から開始されて、今回で16人目の派遣となります。

5番目です。今年の5月の大型連休における対応についてでございます。

即位日等休日法の施行に伴う本年5月の大型連休、4月27日土曜日から5月6日月曜日における市の対応について、別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせいたします。別紙をご覧くださいと思います。

それから6番目ですが、平成31年度敦賀市職員採用候補者試験（医療職・看護職）の実施についてでございます。

平成31年度敦賀市職員採用候補者試験を別紙のとおり実施します。今回募集する職種は、診療情報管理士、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、栄養管理士、看護師及び助産師です。受付期間は4月5日から19日まで。試験は5月19日に市立敦賀病院で行います。なお、看護師及び助産師を除く医療職試験のみ2次試験を6月中旬に実施します。最終合格発表は6月下旬を予定しております。それぞれの採用予定人数など詳細は配付資料をごらんいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

以上で事業発表を終わります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けしたいと存じます。最初に幹事社さんから、よろしくお願ひいたします。

【記者】 発表項目の産業間連携推進事業費補助金の採択に関して、日東工作所の世界初

の高効率水素エンジン利用ドローン研究とあるんですけども、世界初というのは一体何にかかるのかということと、近畿経済産業局とのプロジェクトというのは一体どういうもので、敦賀市が関わることによる敦賀市側のメリットというところを教えてくださいか。

【企画政策部長】 お答えいたします。

まず、世界初というのはどこの部分かということでございます。こちらにつきましては、高効率水素エンジンが世界初という形です。高出力、高航続距離を実現するためのエンジンということです。目的としては、今回開発するエンジンにつきましては、人が乗れるぐらいの出力、さらに連続60分以上の飛行を目的と考えているところです。

それともう1点、敦賀市へのメリットということでございます。こちらは近畿経産局との連携ということでございますが、私ども、ハーモニアスポーツ構想という形で調和型水素社会の形成を目指しているところでございます。そちらにつきましては、国に再三要望等をいたしております。その中で、近畿経産局が水素の研究開発拠点として、私ども計画として希望しておりますので、そのあたりに酌み取っていただいて敦賀のほうに日東工作所の開発という形の配慮もいただいたのかなと考えております。

【記者】 世界初というのは、既に水素エンジンというのはあって、例えばほかの車とか、よくわからないですけども、そういうものに使われているけれども、ドローンに登載して高効率のものが初めてということなのか。もうちょっと詳しく。

【ふるさと創生課員】 今回の世界初といったところでございますけれども、使用しますエンジンは、一般の自動車に適用しておりますレシプロエンジンではなくて、ロータリーエンジンを使わせていただく。水素ロータリーエンジンというものについても世界初になるのかなと思います。それをドローンに登載するというのは、まさに世界初。

そして、先ほど部長が答弁させていただきましてとおおり、今までの、例えば今年1月末に公表されましたイギリスのProject RACHEL、これにつきましては燃料電池タイプの水素エンジンではございますけれども、FC（燃料電池）ですね、いわゆる。それは5キロぐらいの登載重量しか登載できずに飛行できないんですけども、今回については人を一人乗せられるぐらい、60から80キロぐらいでしょうか、それぐらいの登載重量を可能にして、しかも60分以上の飛行ができる。先ほど申しましたように、高出力、高航続距離、これを実現できる恐らく世界初のエンジン性能を持ったものになるというふうに考えてございます。

【記者】 もう一度確認ですけども、その研究開発を敦賀で行うという、研究拠点をこちらに持ってくるということによろしいですか。

【ふるさと創生課員】 引き続きお答えさせていただきます。

我々、採択させていただきましてのは、あくまでエンジン開発部分でございますけれども、大阪万博、2025年までにデモフライトを実現するためには、当然、躯体開発でございますとか、それに登載する制御システムとか、そういうものが引き続き近畿局に聞くと考えられると。そういったことございまして、2025年まで今回のエンジン開発にとどまらず、そういったものも展開できれば。そういった水素ドローンの拠点化というのもできればというふうに考えております。

【記者】 敦賀に日東工作所が研究拠点をつくるということによろしいんですか。

【ふるさと創生課員】 現時点では、敦賀を舞台に研究開発していただく。日東工作所さんの法人格がここにつくるかどうかというものは、まだそこは詰めには至っていませんけれども、少なくともエンジン開発は敦賀でやっていただくというところでございます。

【記者】 今の関連なんですけれども、研究を敦賀で行って、研究開発拠点はどういう人数とか規模とか、そういうのは決まっているのでしょうか。場所とか。

【ふるさと創生課員】 規模感については、まだ決まってはいません。今お問い合わせいただきましたのは、恐らくドローン全部をつくるときの、いわゆる水素ドローン、ハイドロローンをつくるときの規模感でしょうけれども、それは近畿局それ自体も今後、関西スマートエネルギーイニシアティブという母体を使って関連企業さんと詰めをしていくというふうに聞いてございますので、少なくとも日東工作所さん、今回採択させていただいたエンジン開発は敦賀でやっていただく。ただ、その規模感についてはまだ明確には決まっていないところはございます。

【記者】 スケジュールを見ると、今年度から開発に向けた設計等があるんですけれども、いつごろから敦賀で研究が始まるというのは決まっていらっしゃるのでしょうか。

【ふるさと創生課員】 いつごろから敦賀に移転するかといったところでございますけれども、今ご覧になっていただいておりますスケジュール表につきましては、31年度はとりあえず設計業務というところがございます。恐らく早くても31年度末ぐらいになるかなとは思いますが。開発したエンジンというのは、どうしてもその後の躯体開発がつながってくるものですので、敦賀で順調にいけば試験飛行とかそういうこともあり得るとは思いますので、31年度末、早くてもそれぐらいかなというふうには考えてございます。

【記者】 別の連休中の業務対応なんですけれども、5月2日、一部開庁、これは各種証明書発行業務をされるという理解で大丈夫ですか。

【総務部長】 今おっしゃいますとおり、各種証明書の発行ということでございますので、例えば市民課のほうに住民異動届とか出されても、そちらについては処理することはできませんので。

【記者】 元号も変わります、1日というのは元号が変わる日で大安でもあるので、婚姻届とかが多くなると思うんですけれども、そういうときの業務対応で人数を増やすとか、そういうのは対応されるのですか。ほかの自治体でそういうのがあったので。

【総務部長】 県内ほかの自治体とも連携といいますか情報とか入れていまして、その中でもそういったこともありますけれども、10連休中については概ね1日、一部開庁というのが9市の中では多数を占めておりましたので、横並びという大変ですけども大体同程度のという形でとらせていただいております。

【記者】 婚姻届は、いつでもできるのですか。休みでも。

【総務部長】 ええ。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いいたします。発表項目につきましてご質問がありましたら挙手をよろしくお願いたします。

【記者】 さっき水素のエンジンの話が出たので、追加でお伺いします。

この金額でできるというか、そういうめどが立っているのは技術的なものなのでしょうか。それとも、ゼロからということはないでしょうかけれども、ロータリーエンジンをつく

っているわけだから、追加で何かこういうものが必要なのかというような、つまり全体の規模感というのはどれぐらいのものなのでしょう。

【ふるさと創生課員】 全体の規模感というところですけども、正直まだ決まってないそうです。この金額でという、先ほどスケジュールのところでも申し上げましたけれども、主に今回の採択は設計にかかわるものです。設計の中で恐らく全体の規模感、開発費用、そういうものが明らかになってくるのではないかとというふうに考えてございます。

【市長】 ほかの事業もそうですけれども、補助できる金額がこの金額ということで、当然、各社さん、もっとすごく大きい金額を使って研究開発をやっていただく。ただ、補助をすることで敦賀のほうに引っ張ってくるというのが目的です。

【記者】 もう一つだけ。そういう意味でいうと、今後、1年前のときは水素の協定を結んでという形をやりましたけれども、そういうふうなスケジューリングとしては、業者の方に来てもらって具体的にこういう協定を結ぶんですとか、そういう感じで進むようなことというのは今の段階ではあるのでしょうか。

【市長】 担当で答えると思いますけれども、今採択したところなので、まだ具体的な場所とかそういうのは持ってないと思いますが、お願いします。

【ふるさと創生課長】 先ほど市長のおっしゃったとおりでございまして、採択したばかりといったところで、できれば我々の研究開発拠点化、そういうのにご協力いただきたい、水素計画を後押しいただきたい。できれば協定とかそういうものに進んでいければなというふうに考えてございます。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 ドローンの件、事業者が電池、それからリサイクル、エンジン開発と3つ事業者があるわけですけども、ドローンの研究開発と敦賀セメントさんとか太平洋セメントさんも少しぐらいかんでいるということではないのですか。全然関係ないのでしょうか。

【市長】 それぞれ別の事業です。将来的には変わるかもしれませんが、今は全く関係ありません。

【記者】 日東工作所さんが敦賀セメントの敷地を使うとか、そんなことは全くないのか。

【市長】 まだ全く、そういう予定もありません。

【記者】 ドローンの件なんですけれども、物流等の新しい形としてとありますが、等というのは物流以外に何か目的があるのでしょうか。

【ふるさと創生課員】 物流等と書かせていただきまして、まず物流からご説明させていただきますと、近畿局が描いています将来の人口減少加速化の中では、恐らく虫食いの集落というのができるだろうと。そうすると物流コストがかなり高どまりしてしまう。そういうところには無人のある程度の大型積載が可能なドローン、それによって物流網を広げていくということを考えている。

もう一つは、あり得る可能性ですけども、デモフライトでは有人を目指しているそうです。例えば無医村とかそういうところにお医者さんを届けるとか、そういうものもあり得るかもしれません。人流という面も可能性としてはある。そういう意味で等をつけさせていただいているといったところでございます。主には物流、道路代替インフラという形になろうかなというふうに考えてございます。

【記者】 ドローンの話というのは、競合している自治体は他にあるんですか。全く敦賀

が初物。

【市長】 ないそうです。発想は、もともとこちらの日東工作所さんであったと思いますけれども、それを敦賀で最終的に製品にする上で来ていただけるというふうに理解しています。

【記者】 わかりました。

【記者】 水素ドローンの研究開発について、近畿経済産業局とも連携するということなんですけれども、どういった形での関わりになるのでしょうか。HyDroneプロジェクトというものがあるということなんです、経済産業局はどのような形で参画しておられるのでしょうか。

【ふるさと創生課員】 前段でご説明、ちょっと漏れているところがあるかなとは思いますが、ご説明させていただきますと、近畿経産局のほうで関西の彼らの近畿圏域の中小企業ないしは企業さん、産学官の連携をもってスマートエネルギーでの産業おこしとか新しいエネルギーづくりという取り組みが始まりました。これは2015年ぐらいですけれども、関西スマートエネルギーイニシアティブというものがそれになります。その中で行動計画の一つとして定められているのが水素社会の実現というものを掲げられまして、先ほどこっちの私のほうから申しあげました新しいモビリティ、物流インフラとかそういうものを水素のエネルギーを使ってやろうと。その一環として、いわゆる近畿経産局が主導のもとで水素ドローンプロジェクト、HyDroneプロジェクトというのが立ち上がった。日東工作所は、HyDroneプロジェクトの参画企業の1社という形になります。ということは、関西スマエネイニシアティブのほうで主導してやりますので、その事務局である近畿局が全体のプロジェクトを取り仕切る。それにご協力させていただく。HyDroneプロジェクトにあっては、当然、近畿局仕切りの中で全体工程が進んでいくという感じ。そういう役割分担になろうかなというふうに考えてございます。

【記者】 ムゼウムのクラウドファンディングを始めるということでしたが、クラウドファンディングって余り僕、詳しくないのであれですけれども、寄附した人にはどんな特典とかバックがあるのでしょうか。

【市長】 詳しくは担当で。

【産業経済部長】 リターン、お返しの品と申しますのが、3000円、5000円、1万円、3万円、10万、30万、50万、100万というような、こういった額の募金がいただければという形の中で、ありがとうというメールとか、例えばムゼウムの整備の経過の報告とか、あとは例えば入場券、これは金額によって枚数が変わってくるんですが入場券、それからピンバッジ、それから今もつくってお配りしているようなリング型のタオル、それからあとはちょっと金額が大きくなりますと、例えば新しくつくりましたムゼウムのモニターに名前をお出しするとか、それからもう一つ考えられますのは、新ムゼウムでの銘板といいますかプレートを刻んでムゼウムのどちらかにプレートで入れさせていただくとか、そういった形を金額に応じてさせていただくような予定となっております。

【副市長】 タオルとかピンバッジといいますのは検討中でございます。海外クラウドということでございますので、送ると非常にお金がかかるということで、今は状況を見ながらになるかと思いますが、モニターで名前を紹介したりとか、それからムゼウムの工事の進捗状況の報告ということで、ムゼウムというのを知っていただくというのが一番の目

的でもありますし、そうした中で粹に感じていただくといえますか、ムゼウムというのはいい施設だということを考えていただいて海外から寄附を募りたい。そこが中心になっていまして、リターンを期待している人は余りいないのではないかなというのも想定をしております。

【記者】 金額はいいんだけど、それ以上にというか、目減りするだけのお金を出してしまうと余り意味がないのでということですよ。

【副市長】 そういうこともありますけれども、どちらかというとムゼウムを紹介したい。ムゼウムというのはこういう施設だと。その当時、敦賀はこうして温かかったんだということを知っていただいて、浄財と申しますか寄附を募りたいということがメインでございまして、よくわかりませんが、寄附していただける方は、リターンはそんなに求める人ではないのではないかなと。今回の場合は。そういうふうにも思っております。

【記者】 あともう一つ、700万というお金の、これはサイトのそういう設定なのか知りませんが、この金額自体の設定というのはどういう根拠というか、どういうふうにしたのでしょうか。

【副市長】 できるだけ多く集めたいのは山々なのですが、海外クラウドをやっている会社と協議をしましたところ、初めてのことであるし、努力してと申しますか多く見積もってと申しますか、これぐらいの金額が適当なんじゃないだろうかということで設定した金額でございます。

【記者】 これはALL INだから、集まったお金をそのまま充当するという形になるんですか。

【副市長】 ALL OR NOTHINGではないので、700万に達しなくても集まったご寄附はいただきます。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 ファンディングのことなんですけれども、具体的に、例えばユダヤ社会とのかかわりというか、今現在、市長、絵を描いておられることはないですか。あるいは海外へ、例えばイスラエルへ出張する予定があるとか、そんなことはないですか。

【市長】 選挙終わらないと次の計画が立てにくいというところであります。

【記者】 当然ながら二期目担われるという決意があると思います。当選したらこういうこととするよというような構想ございますでしょうか。

【市長】 クラウドファンディングの人道の港敦賀ムゼウムの皆さんに知っていただきたいというのがありますので、アメリカのユダヤ系のニューヨークとか、向こうから来ていただいているんですよ。ニューヨークに行かれる総領事が敦賀に来られたり、ニューヨーク市の市議会議員さんが敦賀に来られたりしていますので、そういう交流が始まっておりますので、そういうところでもっと広めてくれるようなアプローチはしたいというふうに考えています。

【記者】 言ってみるとユダヤ社会と交流始めてますよとそういうこと。

【市長】 そうですね。ユダヤ社会ということよりも、そういう人たちが敦賀に来て、こういう歴史があったんだということは、しっかりと認識し始めていただいているというふうに思っています。

【副市長】 既にイスラエル、ポーランド、リトアニアとかアメリカとか、そういった在

日の大使館、あるいは日本の在ニューヨーク領事館とか、そういったところには既に協力といたしますか、資料を送って協力をお願いしております。

【記者】 向こうの返事もいいわけなんですね。

【副市長】 向こうの返事って、協力してくださるので送ったんです。

【市長】 そういう意味でいいますと、去年の国際文化交流フェスティバルをやっていますけれども、そういうところも各大使館とか文化協会さんに手伝っていただいていますので、そういう意味での交流は始まっていると思っております。各国との交流ですね。

【記者】 今のムゼウムの関連で、今日からなんですけれども、現時点で何件、幾らぐらい集まっているかってあるんですか。

【市長】 1件、3000円だそうです。

【産業経済部長】 ちょうどこの会見が始まる直前から始めて、今1件の3000円だそうです。

【記者】 先ほどのドローンの関係なんですけれども、これはもう既に近畿経済産業局のほうでプロジェクトの概要等は発表になっているのでしょうか。

【ふるさと創生課員】 近畿経済産業局のほうからは、今年の1月25日に森局長のほうから発表がありました。HyDroneプロジェクトが始まるという。ホームページにも掲載されてございますので。

【副市長】 今ここに付けた写真も出していただいている、新聞にも既に載っていたと思います。

【記者】 ムゼウムのクラウドファンディングに戻るんですが、700万円はこれからの運用資金に充てるということですか。建設費ですか。

【副市長】 ムゼウムについては、6月ないし9月議会に向けまして運営方式とか、あるいはさらなる経費の縮減、そういったことを検討しているところでございますので、インシャルに充てるかランニングに充てるかというのはまだ決めておりませんが、先ほども申し上げましたように、少しでもこういった施設に対して関心を持っていただける方のご寄附をいただきたいということで、少し足しにしたいという気持ちもありますけれども、どちらに使うかというのはまだ正確には決めておりません。

【記者】 先の記者の質問とも関連するんですが、ユダヤ社会に広く訴えて協力していただくというのは非常に重要なと思うので、特にメラメドさんを初めサバイバーの方、大成されている方もいらっしゃると思うので、そういうところを狙ってお願いしにいくということが、こんなクラウドファンディングとかも大事なのかもしれませんけれども、そちらを重視されるべきじゃないかなと思いますし、あとリトアニアに関しても、カウナス市と大分協力関係を築いているので、そこらの協力もいただけるなら要請したほうがいいかなと思うんですが。

【市長】 おっしゃるとおりです。ニューヨークへ行かれる山野内総領事が敦賀に見えて、そういう敦賀のアクションに対しての応援体制を整えていくということをおっしゃっていただきましたし、カウナスのリトアニアの山崎大使もそうですし、シモナス館長、スギハラ記念館の。また今度、日本にも見える予定があるそうですので、そういう中でもお伝えして発信していきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。



それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思います。こちらも幹事社さんから、よろしくお願いいたします。

【記者】 市長選が告示まであと2週間というところに迫ってまいりましたが、僕、何度もお聞きしていると思うんですけども、有権者に向けての材料提供を幅広く出していただくという意味で、マニフェストなり政策集を出していったほうがいいのではないかとこのを候補者の方にお伝えしているんですが、市長は。

【市長】 遅くなっておりますが、たたき台を印刷に回しましたので、もうお示しできると思います。

【記者】 いつか言っていただけると。またこういう会見でやっていただいたほうが形としてはいいかなと思いますので。

【市長】 一応つくりまして、印刷に回しましたので、印刷は上がってくると思います。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん、よろしいでしょうか。

【記者】 1期4年目の恐らく最後の記者会見になるかなと思いますので、改めて、この4年間を振り返って、1期目の政策どうだったのかを振り返っていただいて、どうでしょうか。

【市長】 先ほど記者からも言われましたけれども、政策というのをつくるのに、4年前の自分の公約とかいろいろ見たんですけれども、きちんとそれに対して対応して取り組んだと改めて感じましたし、それに対しては、市の職員の皆さんも私の政策に対して実現しようという努力をしていただいたんだなということを改めて強く感じました。100%着手ということですが、これを実際に完成に持っていこうとしますと、まだまだ頑張っていかななくてはいけないということを思っています。

もう一つは、市長職というのは頑張っていけば頑張っていくほど仕事が増えてくる仕事なんだろうと思います。ですから、1年目より2年目とだんだん忙しくなってきたなという感覚もありますけれども、時間配分とか政策の使う時間の強弱なんかも十分に考えていかないと、うまく回らなくなってくる時期がきっと生じるだろうと。てんこ盛りになってきて回らなくなっていくように、いかに政策を進めていくかということをも職員の方々と協力していくかということが大事だというふうに感じています。

【記者】 もし仮に1期目に点数をつけるとしたら、100点満点でどれぐらいの自己評価といたしますか。

【市長】 私、この4年間、晴れ男ではなかったんですが、行事はほとんど晴れました。雨が降ったのは、去年の9月4日の台風が来たときと、昨日の（はぴけあの）テープカットのときだけですので、晴れ率を考えると90点ぐらいかなと思いますけれども、よろしいでしょうか。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきます。ご質問等ありましたら挙手をよろしくお願いいたします。

【記者】 さっき水素のお話もありましたけれども、ハーモニアスポーツ構想が年度内—もう年度変わっていますけれども—に策定というお話でした。選挙があるのであれですけれども、公表の時期というのはどういうふうにお考えなのでしょうか。

【市長】 先ほどの庁議なんかでもその話もしたんですけれども、構想自体は大体まとま

っているんですが、各市町との関係がありますので、その調整を今やっていますので、5月中旬、下旬、6月の議会までに出せるというふうに聞いています。

【記者】 先ほどの市長、ご質問のことなんですが、ご挨拶のところで新元号に対してのお話を頂戴しましたけれども、もう少しお言葉をつけ加えていただけたらとしましたら、どんなふうなお話になりますでしょうか。

【市長】 どんな元号かなというふうに思っていましたけれども、Rで始まる元号になるというのは夢にも思わなかったですね。ただ、「律する」とか「おさ」とか、そういう高い意味もありますので、そういう平和という、人と和するということに対して、そういう高い意味での平和な世の中になっていったらいいんじゃないかというふうに期待するところですよ。

【記者】 イメージとしてどういうイメージを持ったとか。

【市長】 余りイメージを持ちにくい言葉だと思いました。

【記者】 重ねて、お願いいたします。市長、先ほど他社からも有権者への公約とか材料の提供ということがあったんですけども、内容はともかくとしまして、これは斬新だなというふうなものも一応入っていると考えていてよろしいですかね。期待という意味で。

何も僕ら、例えば100%公約というものは実行できなきゃいかんということではありませぬので。政治家ですから、やはり風呂敷は大きいほうが僕らの見やすいですね。そういうところの要素があるかなと。具体のことはともかくとして、それをお考えかなと思ひまして。

【市長】 そんな大層なお題目はつけてございませぬ。

一番大事なお題目は、市民が主役のまちづくりです。ただ、今まで1期目でいろんなことをやってきて、それが一つの大きな形になるんじゃないかなというところが2期目でお見せできたらいいなということは考えていますけれども。ただ、余り大きなことを書いてしまっても、市民の皆さんにとってみれば余り自分たちと関係ないという世界にもなるかと思ひますので、そうならないようにお伝えしないとイケないということを思ひます。

【記者】 それは金ヶ崎のあのあたりについてもそうなんですね。たとえば観覧車できるとかロープウェーできるとかそんな話じゃないですね。

【市長】 それは結果として、そういうものができるかできないかという検討になるのであって、つくるのが目的ではなくて、目的とすると、たくさんの方がそこに集まっていたり、市民の皆さんに喜んでいただいたりというのが大前提でしょうから、そんなことは書いてございませぬ。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして4月の市長定例記者会見を終わります。

ありがとうございました。

午後2時15分 終了